

平成28年度 兵庫県立青雲高等学校 学校評価シート

評価の項目	開かれた学校づくり		生徒指導				進路指導				教職員の資質向上		
	家庭や地域の人々への情報発信	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	進路指導体制の充実	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	実践的指導力の向上	計画性を持った研修の実施						
実践目標	学校ホームページや「青雲通信」などの定期的な発行物の充実を図り、学校・家庭・地域との連携を円滑に進める。	オープンハイスクールや保護者授業参観、学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭・地域との連携を深め、本校教育活動の理解と協力を得る。	安全な学校、より健全な学校の前向きな目標、校門立番や校内巡視の徹底、関係機関との連携、校内全面禁煙の定着等を進める。	生徒の学校行事への積極的な関わりや参加者の増加のための施策を研究・工直し、帰属意識の涵養を図る。	各学校行事の内容を工夫し、生徒が地域・関わり、貢献できる機会を増やす。	キャンパスカウンセラーと「相談室だより」や教育相談に関する掲示物、学校HP等を通して、カウンセラー情報の広報に努める。	定期放送で「進路のしおり」を郵送するとともに、各種説明会等にて情報の提供に努める。	進路指導部と担任が情報を共有しながら、協力して生徒の進路実現を支援する。	関係機関と連携して、インターンシップを実施し、生徒の進路意識を高める。	正規就労の意味や大切さ、就労のしきたり等を十分に理解させ、生徒の就労への意識を高める。	スクーリング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況を把握し兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。	当面する諸課題に対し、各分室が全教職員対象の研修会を企画し、計画的に実施する。	
自己評価													
成果	4.13(昨年度3.45)	4.24(昨年度3.45)	4.36(昨年度3.56)	3.64(昨年度2.99)	3.75(昨年度3.14)	4.13(昨年度3.30)	4.24(昨年度3.11)	4.20(昨年度3.37)	3.90(昨年度3.37)	3.86(昨年度3.18)	3.71(昨年度3.37)	3.56(昨年度2.88)	3.94(昨年度3.14)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だより、学級通信等の定期発行物や「青雲通信」など生徒・家庭・地域に必要不可欠な情報の発信や、生徒の様子を継続的に発信した。 ・学校ホームページは分かり易いと保護者から評価された。特に今年度は、各行事終了後に行事の様子や写真をすばやくアップすることができた。 ・昨年度は創立50周年を迎えた。新たな1年目の歩みになる今年度はあらゆる情報発信の方法を検討することができた。これを平成28年度に生かす。 												
生徒アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 「青雲通信」などの定期的な発行物や学校HPは役立っていますか。 												
生徒評価													
成果	3.88(昨年度3.92)	2.48(昨年度2.22)	3.60(昨年度3.42)		2.54(昨年度2.65)	2.84(昨年度2.36)	4.40(昨年度4.58)	2.72(昨年度2.50)	2.96(昨年度2.78)				
学校関係者	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な発行物や学校HP、各種の行事などを通して家庭や地域との連携を深めていると思いますか。 												
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の積み重ねでしょうか、学校からの情報発信は年々多くなっていると思います。学校行事のしおり、文化祭は楽しく賑やかな空間と地域との連携を感じたもので、毎年楽しみにしております。生徒みなさんたちの表情が活き活きとされているのが印象的でした。少しずつ参加人数が増える良いと思います。 ・オープンハイスクールや授業参観、文化祭などを通じ家庭や地域との連携を深めていると思います。 ・文化祭は地域の子供たちも楽しみに参加している。生徒もこの日のために、ダンスの練習を、夏の暑い日にも友達を集めて頑張った練習をした。楽しい学校生活の思い出が出ている。 ・「青雲通信」やHPを通じて、家庭や地域と連携を深めていると思います。 ・連携を深めています。自己評価、生徒評価が90%を超えています。 ・「青雲通信」が定期的に発行されていることは、大変意義があります。 ・生徒のアンケート結果を見ますと、発行物や学校HPは評価できるとの感想が、行事への参加については、「参加できなかった」「参加できなかった」について分析できた方がよいと思っております。 ・ある程度はそう思います。ただ、現在、SNS、スマートフォン等のメディアが多様化する中で、情報をどう扱うかは日々、研究が必要だと思います。 												
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「青雲通信」の内容をがとも良いものになっているので、今年度は年次通信等を更に充実させ、生徒や保護者などに青雲高校に対する理解をより深めてもらう。 ・今年度はオープンハイスクールに加え、学校説明会を1回実施することができた。本校に転学を考えている生徒の皆さんや保護者の方にこそ参加頂けた。今年度も学校説明会の回数に数回設けるなど、本校の更なる広報活動に励みたい。 1年次生保護者会はまだ少ない状況であるが、年々参加者が増えている。今年度も更に、新入生や保護者などに青雲高校に対する理解をより深めてもらうための一助となるよう内容を充実を図りたい。また、文化祭等の生徒の行事への参加者も、年々増加傾向にあるので、生徒と力を合わせて、素晴らしいものにしてほしい。通信制では行事が果たす役割が大きく、今後更に様々な内容を検討していきたい。 校門付近に駐車する家族や友人の自動車については、ボスターや配布物等での注意喚起を継続し、警察との連携も密にする。今年度は特に問題にならなかったが、外部の者を学校に連れて来る件については、入学式、始業式等で引き続き注意喚起を徹底する必要がある。また、問題行動については、各年次と連絡を密にし、連携して生徒の指導に当たる。 今年度の取り組みを検証し、来年度以降に生かすことができる方策や、対応の仕方をできる限り計画の段階から要項等に織り込むようにする。行事参加の意識を高めるためにもホームルーム活動の充実を図る方策を検討する必要がある。 引き続き安全面での配慮を怠らず、学校周辺地域の清掃活動や恒例行事として位置づけ、生徒会執行部以外の生徒の参加者に織り込むようにする。ボランティア活動が生徒会のみならず、全校生徒が参加できる雰囲気作りと意識の高揚に繋げたい。 生徒理解のために、カウンセラーを活用した教職員全体の研修会の実施など外に個別のケース会議などの機会を増やし、カウンセラーと教職員の間の共通認識をより深める。 「相談室だより」でカウンセラーの実施日程やグループワークの内容などのお知らせ以外に「グループワークの事後報告」や「ストレッチ」など生徒の興味・関心が高まる内容を掲載し、生徒にとってカウンセラーがより身近なものとなるようにする。 生徒のニーズを分析し、進路指導資料のさらなる充実と情報提供に努める。また、自分自身に自信を持ち、健やかに人生を生きていけるよう、生徒の進路実現を支援していく。 進学・就職をめぐる社会情勢は時々刻々と変化している。生徒が社会に出て、自分自身に自信を持ち、健やかに人生を生きていけるよう、生徒の進路実現を支援していく。 月2回程度のスクーリングで進路指導を実施しなくてはならない状況である。その中で、各教科のスクーリング風景をビデオに収め、スクーリング後で視聴し、互いの授業に対する感想等、意見交換を行ったり、NHK高校講座のモニタリングを全教職員で行い、面接指導やスクーリングに使用する補助教材等の改善や新たな教材の作成に役立てたい。 												

平成28年度 兵庫県立青雲高等学校 学校評価シート

評価の観点	危機管理体制の整備				基礎・基本の定着		事務部と教職員との連携		安全・健康教育		人権教育		新しい通信制教育													
項目	実効ある学校マニュアルの策定		家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の構築		教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上		生徒の学力の把握と評価基準の設定		事務部と教職員との連携による生徒支援の充実		事故防止の工夫と救急処置の対応力を高める		健康に関する認識を高める取組み		人権教育推進体制への取組		インターネットの活用による新しい通信制教育の実現									
実施目標	本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。		通信制高校に合った家庭・地域・関係機関との連携体制を検討・工夫し、防災に対する教職員の安全対応能力の向上を図るための取組みを行う。		災害発生時に生徒的かつ判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務についての確認を行う。		防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的な事例をもとにしたHR指導が行えるようにする。		本校の実情に合わせた基礎学力定着を目指す学校設定科目を設置し、上位科目の学習につなげる。		事務部と教職員が連携して、環境への配慮をしながら教育活動を進める。		受講料や学校徴収金の徴収をはじめ、レポート・定期発達の受け渡しや各種の事務手続きについて事務部と教職員の連携を密にし、生徒の学習が順調に進むよう支援する。		安全点検を定期的に行い、救急処置などの安全教育の研修会を実施する。		健康診断の受診率を高め、事後指導の徹底を図るとともに、保健室利用者への丁寧な対応に努める。		長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習を進める。今年度は、地震が起きた時の行動を学び自分や周りの人の命を守る方法を考えることを通じて人権に対する意識を高める取組を行った。		多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部・各教科と緊密な関係を取り、生徒一人ひとりを大切に人権教育推進体制を構築する。		Setun Web Schoolや青雲eラーニング、生徒の学習支援を進める。			
自己評価																										
成果	3.33(昨年度2.80)		3.30(昨年度2.84)		3.48(昨年度2.88)		3.83(昨年度2.77)		3.94(昨年度3.30)		4.05(昨年度3.26)		4.36(昨年度3.41)		4.36(昨年度3.26)		3.94(昨年度3.30)		3.60(昨年度3.26)		3.56(昨年度3.11)		3.64(昨年度3.14)			
成果	本校の実情にあったマニュアルが作成されて今年度で4年目を迎えた。通信制は毎日生徒が学校で生活することがないので、スクーリング時の緊急事態に備えたマニュアルを生かせるか課題であるが、職員研修等を通じて、職員の意識が高まった。		生徒が毎日登校しないので、家庭や地域との連携による危機管理体制については課題が多い。外部関係機関との連携については体制はしっかりできているが、家庭や地域との繋がりが希薄な部分があるが、保健部を中心に、職員の危機管理意識の高揚が図られた。		今年度も最初のホームルームで「避難時の注意」のプリントを使用して生徒に説明し、災害発生時の避難について確認を行った。ホームルーム欠席者には、「避難時の注意」プリントを定期発送に同封して通知した。また、新たな防災管理組織とその任務を全職員で確認し合った。		今年度も、現代の若者が陥りやすい「薬物被害やネット被害の実態について、命の大切さという観点から、薬物防止とスマートフォンに係るネット被害に重点を置いた。長田警察・スマートフォン会社から講師を招聘し、HRにて生徒向けの、研修会を実施した。より現実的に自分を守る上で、大切な知識を得ることができた。		学校設定科目について、大枠はここ数年、変化はないが、内容を現在の生徒に馴染ませる工夫が、各教科の課題となっており、それについての努力が実りつつあるのと云えよう。上位科目の内容についても通信制の実情に合わせた精選が図られている。		今年度も、空調機の異音・温度の遵守、デマンド警報発令時の節電、印刷部等の見直しによる排気削減、薬品利用の促進に積極的に取り組んだ。また、事務所受付には絶えず草花を飾り、少しでも生徒の心が和むよう配慮がなされた。また、草花プランターを玄関のみにならず、校内に設置し、よりよい学校環境づくりを行った。		今年度も事務員だけでなく事務部の職員も交代で職員会議に出席した。これにより、各部からの報告・依頼事項を直接聞くようになり、学校の情勢や生徒の様子について一層理解を深められることとなり、審議に加わることで、審議に積極的になるようになった。膨大なレポートを教員担当に渡したり、生徒に発送するなど、事務部と教職員が連携してこなすことができました。		昨年度、仮設校舎から本校舎への引っ越しがあり、毎月の安全点検にはより、細心の注意を払った。耐震工事前には、想定できなかった。教室等の問題にも、教職員が力を合わせて解決に臨んだ。その結果良好な学習環境の整備ができた。不良箇所については事務室が迅速に対応し、不具合の整備が行えた。また、全職員が人工呼吸器携帯マスクを携帯し、万が一のための救急処置が取れるように努めている。		5月実施の健康診断受診率は、1年次約57%(昨年より1)、2年次約54%(昨年より1)、3年次約53%(昨年より1)、4年次約31%(昨年より1)であった。尿検査受診率は、本校約47%(昨年より1)、協力校約39%(昨年より1)であった。今年度も胸部レントゲン間接撮影に関しては、1年次生以外にも自費による受診機会を設け、若干名ではあるが未受診者減少に努めた。健康診断終了後には、個別に治療報告を行った。また、「保健だより」を通じて、生徒の健康への関心を高め、保健室利用の生徒に対しては、丁寧な対応に努めた。		人権HRのテーマを過去8年間を振り返りテーマ重複しない様態で、同じテーマで前回と同じテーマで実施したときの課題点を改良し、テーマ設定と実施内容に反映した。		東日本大震災の映像を視聴することにより命の大切さを知ることにより、同様の災害が起きたとき、災害弱者に対するサポートの手助けをしたいと答える生徒アンケートも好反応であった。		インターネットの人口普及率は8割を超えており、これからは増加することが予想される。生徒アンケートの評価で75パーセントを超える肯定的回答が見られることから、支援の場としてのインターネット活用の必要性が年々高まっていることがわかった。生徒の放送視聴によるeラーニング等の活用ニーズも年々増え、全体的に利用の幅はますます広がることが想定される。以上のことから、この分野の環境整備(ハード、ソフト)をより充実させるとともに、定期放送やLHRでSetun Web School等の利用方法について周知徹底することが重要な課題であり、全職員で取り組んでいく必要がある。		Setun Web School(インターネット上のRS個人票など)や青雲eラーニングや使いやすいですか。	
生徒アンケート	災害が発生したときの、校内の避難経路を知っていますか。						青雲高校で、どのようにすれば単位が修得できるか、分かりやすいですか。		他の学校にはない入門科目(英語・数学・社会)があって、学習しやすいと思いますか。		事務室の窓口や電話での説明は分かりやすいですか。						今回のHRでの学習は役にたちましたか。									
生徒評価																										
成果	2.28(昨年度2.21)						3.84(昨年度3.76)		3.75(昨年度3.74)				3.65(昨年度3.60)				4.58(昨年度4.46)				3.56(昨年度3.68)					
学校関係者							通信制の学習システムを理解させ、基礎基本に戻って生徒の理解を助ける努力がなされていると思いますか。														生徒の学習への興味・関心を高めたり、スクーリング出席時間の不足を補ったりするために、インターネットや情報技術が活用されていると思いますか。					
評価							・不登校で学習から遠ざかっていた子どもたちが約6割在籍していることから、入門科目があることは、学習しやすいと思います。まずはレポート提出がスムーズに行くきっかけにもなると思います。そして、基礎学習の定着につながると思います。継続的なレポートの工夫も必要だと思いますので、平成29年度の「NHK高校講座」の組み合わせと、期待するところです。・本校に進学してくる生徒は、病欠や不登校により、中学校の勉強が充分理解できていない生徒もいる。その為、入門科目の設置は生徒の理解を助けるために必要である。レポートの作成も補助が必要とする生徒もいる。生徒の学習理解を助ける努力はこれからは必要だと思います。・基礎学力、単位修得は生徒にとって最も大切な課題ですが、充分に助ける努力がなされています。自己評価、生徒評価の通り、学ぶ意欲にふさわしい対応が充分にされていると思います。・生徒のアンケートを見ても、昨年度に比べ、ポイントが増えています。努力がされていると思います。・良い努力が、アンケート結果からも実績につながっていると思います。機会があれば、在学中に出来なかった学習や一度終了した科目の復習の為、再度、ご教授願いたいと思います。						本校が、レポート等、使用する紙類の量が環境に影響を与えるものの中で一番のウエイトを占めている。しかし、紙は生徒達との大切な通信ツールでもあり、教育の質を落とすことなく教育活動を続けていくために、今後も教職員とともに創意工夫を続けて使用料の削減に取り組む。		生徒や保護者の問合せ等が毎日とても多く、電話や窓口での対応に配慮が必要な生徒や、介助が必要な生徒情報の共有等に心がけているが、今後更に努力を重ねていきたい。高等学校等就学支援金や高校生等奨学給付金、保健健全関係の給付金、各種奨学金の案内など生徒の学習を支援できる情報を積極的に発信し、多くの生徒の学習支援を行ってきたい。		近年、様々な体調の生徒が増えていることを踏まえ、教職員の救急処置の対応力を高めるための研修会を実施していきたい。また、毎月の安全点検により、不具合の迅速な整備に努め、生徒及び教職員の安全に留意していきたい。		生徒に健康診断の重要性を訴え、受診率のアップに努める。「保健だより」を通じて、事故発生時の対応及び養護教員不在時の保健室利用等についても職員の間で共通理解を深め、生徒の保健安全に取り組む。		今までの本校での実施履歴を考慮しながらも最新の社会情勢も考慮しながら生徒に優先順位が高いと思われるテーマを選択する。		人権委員長が不慣れなため計画時期が大きくなる見込みがある。委員からの面談的提案に頼り過ぎず、対象生徒を充分熟知されている担当の教員が実施される余地が増えるよう早期から計画に取組み、各担任の裁量が十分発揮できる余地にも配慮できることを期待したい。			
今後の方策	昨年度校舎の耐震工事を終えた。耐震工事前のマニュアルから仮設校舎でのマニュアル、そして、耐震工事後の本校舎のマニュアルと、目まぐるしく変わってきた。しかし、工事前と工事後では、同じ校舎でも、学校運営を行っている以上では、大きく状況が変わった。このこと踏まえ、校舎内の安全点検を更に見直し、より効率的なマニュアル作りを目指したい。		毎日生徒が登校しない通信制学校では、生徒たちが普段から地域との密接な交流を図ることは難しい。そのため、毎日学校で勤務している教職員が地域の防災訓練や行事等に参加するなど、新たな取組を企画し、各機関との連携を深め、生徒の安全意識を高めたい、とことを考えたい。		スクーリング時は長田高等学校の校舎を全面的に借用しているため、本校の校舎のみならず、長田高等学校の災害時の避難経路や避難場所を確認し、スクーリング時の災害発生・緊急事態を想定し、生徒および教職員の避難がよりスムーズに行えるように努めたい、とことを考えたい。		全生徒が一同に会して、避難訓練等の研修講座企画できないため、全教職員に災害等の安全確保のための研修会、訓練を実施し、各HRで、生徒に更に周知徹底できるように、体制を整えたい。		通信制のシステムについて生徒の理解を促す努力は、創立以来の課題である。本校の根幹に関わる問題である。ゆえに何年も試行錯誤が続けられてきた末に、現在の本校のあり方があるのだらうと思われる。劇的な改善策があるとは思われないが、着実な改善は図られていると思う。今後この歩みを続けていきたい。		本校が、レポート等、使用する紙類の量が環境に影響を与えるものの中で一番のウエイトを占めている。しかし、紙は生徒達との大切な通信ツールでもあり、教育の質を落とすことなく教育活動を続けていくために、今後も教職員とともに創意工夫を続けて使用料の削減に取り組む。		生徒や保護者の問合せ等が毎日とても多く、電話や窓口での対応に配慮が必要な生徒や、介助が必要な生徒情報の共有等に心がけているが、今後更に努力を重ねていきたい。高等学校等就学支援金や高校生等奨学給付金、保健健全関係の給付金、各種奨学金の案内など生徒の学習を支援できる情報を積極的に発信し、多くの生徒の学習支援を行ってきたい。		近年、様々な体調の生徒が増えていることを踏まえ、教職員の救急処置の対応力を高めるための研修会を実施していきたい。また、毎月の安全点検により、不具合の迅速な整備に努め、生徒及び教職員の安全に留意していきたい。		生徒に健康診断の重要性を訴え、受診率のアップに努める。「保健だより」を通じて、事故発生時の対応及び養護教員不在時の保健室利用等についても職員の間で共通理解を深め、生徒の保健安全に取り組む。		今までの本校での実施履歴を考慮しながらも最新の社会情勢も考慮しながら生徒に優先順位が高いと思われるテーマを選択する。		人権委員長が不慣れなため計画時期が大きくなる見込みがある。委員からの面談的提案に頼り過ぎず、対象生徒を充分熟知されている担当の教員が実施される余地が増えるよう早期から計画に取組み、各担任の裁量が十分発揮できる余地にも配慮できることを期待したい。					